

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2014.09.30

NO.21

○ 新理事長就任に当たって

日本学校教育相談学会栃木県支部理事長 柴 一弥

17年間の長きにわたり本学会栃木支部の支部理事長を努めてこられた丸山隆先生が今年の3月で勇退されました。本支部は来年度に設立25年目を迎えます。丸山先生には設立当初から日野先生（初代支部理事長、元日本学校教育相談学会会長）とともに支部の立ち上げ、前進・発展のためにその心血を惜しみなく注いでいただきました。

講演はもちろん普段の語り口も気さくでユーモアたっぷりなお人柄は皆さんの知るところかと思えます。それだけではありません。相談室（現在の連合教育会相談部）では、豊かな経験に裏打ちされた知見を訪れるたくさんの来談者に提供されてきました。また相談員にときには部長として厳しく教示され、かと思えば近所のおじさんのように接していただき、いつも笑いが絶えない相談部でもありました。

今後は名誉会員として私達を見守っていただけるということです。本支部の「お守り」として、私達の心のよりどころとしてこの先もお元気で活躍いただきたいと思います。

さて5月30日に教育会館で支部総会が開催され、事務局提出議案は参集された会員の皆様のご理解を得てすべて承認されました。議案の最後に役員改選があり、新理事を含めた新理事会体制も確立しました。

栃木支部は全国でも1、2を争う会員数を擁しています。この規模を最大限生かした支部活動を構築するためには理事会の刷新を図り、それぞれの理事が役割を担って活動することが求められています。その第一弾として広報活動をもっと工夫し、会員の皆様と相互交流ができるようなものにしていこうと、早速第1回の広報委員会がすでに開かれました。このあとも、研修会のあり方、認定カウンセラー資格取得のサポートのあり方など、改善できることから実行し、会員に役に立つ支部作りを目指したいと思います。

「いじめ防止対策法」、「教育委員会の組織改革」、「6、3、3、4制の改革」など教育を取り巻く情勢がめまぐるしく変化している昨今、教育に携わる私達にはこの変化に乗り遅れることなく、こどもたちの健全な心身の発達を促せるような研究活動と、目に見える実践活動が今求められています。

本学会支部は年間事業計画に、講演会、支部研修会、を始めとしたいくつかの行事を設定しています。さらなる会員の積極的な参加を希望します。そして支部会員が全員認定学校カウンセラーや、ガイダンスカウンセラーのライセンス取得を視野に入れた実践・研修をしていきましょう。

以上、新理事長就任に当たっての挨拶に代えさせていただきます。

理事長プロフィール

- ・栃木市出身
- ・昭和52年小山高校を皮切りに高校教員を37年間勤め上げ、本年3月、大田原女子高で定年退職。昭和60年、黒磯高校在職中に県教委主催の学校カウンセラー養成講座に参加し、教育相談の世界に入った。以来、日野、下司、金子、丸山の各氏の教えを受け現在に至る。

退任のあいさつ

日本学校教育相談学会前理事長 丸山 隆

学会栃木支部理事長に就任して18年、ついにそのときが来た。柴一弥氏という後継者を得て、心置きなくその任を退くことができた。さらに支部の推薦を得て、名誉会員の称号を得る、というハッピーな出来事と共に……。

この間の18年、栃木支部はどうだったのであろうか。少なくとも前々理事長、日野氏の跡を継いで支部理事長に就任した私がしたことは、氏の足跡を汚さぬようにと、ただその思いだけで行動することであった。偉大な徳川家康の跡を継いだ2代将軍秀忠よろしく、ひたすら前任者の跡を追いかけた。私は無能であったが、しかし幸いにしてスタッフに恵まれた。歴代の理事の方々を始め、事務局のメンバー、そして何よりも200名に上る学会員が支えてくれた。「学会研究紀要」の発行、HPの作成や更新、毎年度の予算や決算、行事の立案等々、支部活動は多岐に渡っている。それらの活動は当然のことであるが、理事長1人でやれるようなものではない。有能な事務局の働きがあって初めて機能できる。何度も書いたことであるが、退任にあたり、もう1度この場を借りて関係者に謝意を表したい。さらに「ニューズレターの発行」に携わってくれた広報委員会のメンバー、HPの立ち上げに尽力してくれた学会員にも感謝を申し述べたい。お陰で、支部活動の透明性が確保でき、「よく見える」支部になることができた。

心残りが1つある。それは学会中央の会長、日野宜千氏を出した名門支部にも関わらず、その灯を消してしまったことである。全国理事を2期やったものの、それ以上の期待に応えられなかった。全国2位の会員数を誇る栃木支部としては、柴一弥氏に、是非中央に打って出て欲しいと願っている。それから、学会活動でただ1つ鮮明に覚えていることがある。何回大会だかは忘れたが、「山梨大会」におけるメイン講師を勤めたことである。栃木ロールプレイング研究会のメンバーを引き連れていじめの即興劇に挑戦した。会場の反応は上々で、終了後、全国の会員の方々から様々な賛辞をいただいた。そのことは、多分、栃木支部の名を挙げることに十分貢献したと思われる。それをただ1つの成果として、最後に書き記すことをお許しいただきたい。

日本学校教育相談学会前理事 毎澤典子

今回栃木県支部理事を退任することに当たりいろいろ振り返ってみました。平成2年2月全国規模の学会として「日本学校教育相談学会」が発足し、その僅か7ヶ月後には栃木県支部が設立され、今年で24年目を迎えました。翌3年には第1号の研究紀要が発行され、当時まだ名前も知らなかったLDやADHDを根にもつ不登校の対応の事例などを投稿しました。怖いもの知らず…でした。平成7年には学会認定「学校カウンセラー」の資格認定が始まり、今は亡き下司先生の勧めで第1回の認定試験を受け15名の仲間と共に学校カウンセラーの資格を頂き、今までに3回の資格更新をしました。平成8年からは支部理事を務めましたがおっと早くに新進気鋭の後輩たちに道を譲るべきだったと反省しております。平成14年からは日野先生の推薦で全国認定委員を務め、これから資格を取ろうとする人たちの書類審査や面接試験等に当たりました。1990年代、毎月のように東京まで研修に通ったあのパワフルな時代、学ぶ喜びを満喫していた時代を懐かしく愛おしく思い出します皆様も学ぶことが楽しくてしかたがない時に精一杯学び、力をつけこれからもご活躍ください。

日本学校教育相談学会前監事 笠原光雄

ふり返ってみると、栃木カウンセリング協会の研修に参加して以来、日野宣千先生や丸山隆先生をはじめたくさんの方々にカウンセリングの初歩的な事を教えていただきました。それ以来、日本学校教育相談学会栃木支部に入会し勉強させていただきました。平成17年より、監事ということでしたが、皆様のお役に立てるほどの役員としての仕事は、恥ずかしながらできていませんでした。しかし、栃木支部が主催する研修に参加したり、研究紀要に目を通したりするたびに「学校現場で悩んでいるのは自分一人ではない」と、いうことが実感でき学校現場で勇気づけられました。

日本学校教育相談学会の活動は、これからも学校現場での悩みに対して解決のヒントを与えてくれると思います。そして、自分としても「子どもの能力に合った学力の向上」や「家庭環境に左右されない学習の場を保障する」など、今後も学校現場での実践を行っていきたいと思います。今まで、役員の方々には大変お世話になりました。これからも、栃木支部会員としてよろしく願います。

平成26年度日本学校教育相談学会栃木支部総会

平成26年5月31日、栃木県教育会館5階小ホールを会場に平成26年度日本学校教育相談学会栃木支部総会が開催され、平成25年度事業報告、決算報告、会計監査報告、及び平成26年度事業計画案、予算案の議案並びに新役員が承認されました。また、今年度は新理事長に柴一弥氏が選ばれ、長年に渡りご活躍された丸山隆氏への感謝状の贈呈式も催されました。

平成26・27年度役員

| | | |
|-----|-----------|-----------|
| 支部長 | 柴 一弥 (新) | |
| 理事 | 池田 清恵 | 井澤 裕 |
| | 小川 正人 | 川俣 幸雄 |
| | 佐藤 幹雄 | 原田 浩司 |
| | 藤浪 直紀 | 築瀬のり子 |
| | 松本 直美 (新) | 馬場 友治 (新) |
| 監事 | 齋藤誠一郎 | 平峰 孝二 (新) |
| 事務局 | 谷津 嘉子 | 中山 芳美 |



同日、平成26年度栃木県連合教育会主催の三講座合同の開講式も行われ多くの受講生が特別講座に参加しました。今年度の各講座の担当者を紹介します。

| | | |
|-------------|-------|-------|
| 「発達障がいセミナー」 | 谷津 嘉子 | 中山 芳美 |
| 「個人面接の技法」 | 長岡 和恵 | 及川 孝子 |
| 「カウンセリング入門」 | 上野 則子 | 高松千恵子 |

○新任役員挨拶

—広報委員としての挨拶—

新任理事 松本直美 (下野市立吉田西小学校)

小学校で主にチーム援助やグループアプローチに取り組んでいます。校内体制で学級集団づくりや特別支援教育を充実させていくことが課題です。さて、私は広報担当理事として、主にニュースレターの作成や学会本部ホームページへの栃木県支部の情報掲載を担当します。また、理事会では、小学校の立場から情報や研修ニーズを発信したいと思います。微力ながら、支部の発展と会員の皆様のよりよい活動のためにお役に立てたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新任理事 馬場友治 (宇都宮文星女子高等学校)

現在、高校で授業の傍ら、教育相談として生徒のカウンセリングやケースワークを担当しています。また職場では学校案内や会報誌の仕事も長く携わってきました。広報担当として少しでも会員の皆様のお役に立てればと考えております。理事を拝命して支部にどのようにかかわれるか分かりませんが、初心に帰りながら励みますのでよろしくお願いいたします。

新任監事 平峰孝二 (矢板中央高等学校)

学校教育相談学会栃木県支部には、多くの会員が所属するとともに、研究熱心な方が多いと感じております。そのような皆様の一員として、広報活動に携わることには大きな責任と遣り甲斐を感じております。これから、先輩方にご教示頂きながら一生懸命に活動していく所存ですので、宜しく願い致します。

○ 発達障がい特別講座

『発達障がいの理解と対応～演習を交えて～』

講師 バーンズ亀山静子 先生

(ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト)

5月31日の栃木県支部総会後のバーンズ亀山静子先生によるカウンセリング特別講座に続いて、6月1日に、「発達障がい特別講座」が開催されました。定員に迫る多くの参加者があり、内容と相まって、とても熱気のある研修になりました。

講座は、特性の理解とそれにもとづく具体的な援助の手だてについて、演習を通して学ぶことができ、学校現場での実践につながる大変有意義なものでした。各自が課題をもち、具体的な支援ニーズのある子どもの姿をイメージしながらの学ぶという大変わかりやすい講座でした。実際にどんな内容で、どんな学びがあり、どのように実践に生かせるかは、参加者の方達の感想をお読みください。

発達障がい特別講座「発達障がいの理解と対応～演習を交えて～」に参加して 石井 貴美

～演習を交えて～というタイトルに惹かれて参加しました。バーンズ先生の講義は親しみやすいお話、実際の写真、演習で眠くなる暇もなくあっという間の一日でした。特に14の『実行機能』という視点から学びました。



・実行機能とは、抑制、時間のマネージメント、感情コントロール、開始、適応性、持続性、目標設定、意図的注意、計画・構造化、ワーキングメモリー、順序立て、セルフ・モニタリング、ものの整理、シフト。

・実行機能を考慮した働きかけとは、周りの大人が「外付け前頭葉」になる。

・方法は、モデリングとシェイピング。忍耐と受容。「考えること」を思い起こさせる合図を送る。

もう一度『実行機能』という視点からアセスメント、対応を見直してみようと思いました。どの子ども学校で成功できるように・・・。

発達障がい特別講座「発達障がいの理解と対応～演習を交えて～」の感想 重光 美江

「すべての子どもが必ずしも同じことを同じときに同じ方法でしなくてもよいということに気付く」バーンズ亀山先生のお言葉に、「なるほど！そうですよね！」と、思わず声を上げそうになりました。

アメリカでは、すでにこのような、それぞれの違いを前提とした授業が行われていることを知り、とても刺激的でした。最後の方で、先生から、発達障害を理解し対応する特別支援から更に進んで、ユニバーサルデザインを学ぶの場に取り入れていくことについてのお話がありました。もし、子供たちが、ひとりひとりを大切に、そのような学校の環境で育ったならば、お互いの違いを越えて、相手を尊重し、思いやりを持って共に生きていくことを、経験を持って学ぶことができることでしょう。発達障害について考えていくことは、学校の間だけではなく、これまでの私達の社会の価値観やシステムを、みんながより自分らしく、楽に生きられる方向へと変えていくことにも繋がっているように感じています。今回の先生のお話を伺いながら、更にその印象を深めました。

「発達障害の理解と対応」にトライ 塩谷 房子

毎年のように学校を変わっている私は、どの学校でも困っている子どもたちと出会います。今回の研修で、今まで関わったことのある子の顔が自然と浮かんできました。

この子たちの困り感には、14もの実行機能が大きく関わっていることがわかりました。しかもその発達が全て完成されるには、成人を待たなくてはいけないことは驚きでした。

また、大人が実行機能を補う外付け前頭葉になり、具体的に段階的に働きかけをすることや、学びのユニバーサルデザインをすることなど、私たち大人側の課題がたくさんあることもわかりました。これらの課題に、自分たちができることをやっていく意欲と勇気を持ち続けていきたいです。またこの研修で学んだことを周りの人に知らせるなど、少しでも広めていきたいと思います。アメリカで実現されている「どの子ども学校で成功できる姿」を目指して。



記 松本 直美

○栃木県ガイダンスカウンセラー会 挨拶

栃木県ガイダンスカウンセラー会 会長 川俣 幸雄

栃木県ガイダンスカウンセラー会は、全国に先駆け、県内の学校カウンセラー、認定カウンセラー、学校心理士などの有資格者のうち約8割63名の参加を得て、平成24年7月29日に設立されました。現在、3年目を迎え、ガイダンスカウンセラーも83名と増えています。

「ガイダンスカウンセラー」という資格は、教育現場でまだまだ十分に認知されていないので、広報活動の一端として、「ガイダンスカウンセラーとは何か」「スクールカウンセラー」の活用などについて、県教委や各教育事務所、宇都宮市教委を始め各市教委へ出向いて情報交換をしています。さらに、会員一人ひとりの資格・職歴・専門分野・活動状況などが記載された会員名簿を作成し、ガイダンスカウンセラーからスクールカウンセラーとしての採用がなされるように働きかけています。

ご周知のように、ガイダンスカウンセラーは、生徒指導と教育相談のプロフェッショナルです。学校管理者からは「カウンセリングできる人」のみでなく、「マネジメントできる人」「トータルな力を持っている人」「カリキュラムを組める人・動かせる人」が望まれています。このような要望にも応えるため、栃木県ガイダンスカウンセラー会では年2回の研修会を企画していますので、有資格者の皆様の積極的参加を期待しています。

最後に、教育の専門家は仲間や校長の相談相手になることができるような知識と技能と人間性を身に付けることが大切だと思います。そのような成長が図れる支援ができるような、栃木県ガイダンスカウンセラー会であることを願って、挨拶とさせていただきます。

講演 ～ガイダンスカウンセラーの特性と活動～ 八並光俊教授

去る6月22日(日)、栃木県ガイダンスカウンセラー(以下、GC)会は、生徒指導研究の先駆者として知られる東京理科大学大学院の八並光俊教授をお招きし、栃木県青年会館に於いてご講演いただきました。

教授は、まず、GCの職務について、データ・ベースド・スクールカウンセリングや分析的アセスメントの実践者(アナリスト)としての役割を強調されました。併せて、成長促進型生徒指導の中核となるガイダンスカリキュラムのディベロッパー、授業づくり・学級(HR)経営のコンサルタント、生徒の問題行動の早期解決や援助チームのコーディネータとしての役割にも言及されました。続けて、いじめ防止対策推進法の公布を踏まえ、GCにはPDCAサイクルに基づくいじめ防止体制のマネジメントをプランニングするプランナーの役割があると述べられ、具体的な条文を示しながら丁寧に説明されました。

最後に、教授が図表等を用いて合理的根拠を示しながら大変解り易く講義を展開されたこと、またその語り口の中に豊富な臨床経験に裏打ちされた深い洞察と児童生徒に向けられた暖かい眼差しがひしひしと感じられたことを報告いたします。

記 平峰 孝二

スクールカウンセリング推進協議会からの現状報告

(1) 6月12日(日)、スクールカウンセリング推進協議会(以下、SC推進協)事務局の東則孝氏から次のような状況報告がありました。

①文部科学省の初等中等教育局児童生徒課への働きかけをしている。

②各地のガイダンスカウンセラー(以下、GC)会員が支部を立ち上げて、教育委員会と直接に交渉することを推奨している。今年、栃木県に続いて埼玉県にもGC会が設立され、8月中旬には北海道で設立総会が予定されている。その他の県でも着々と支部創設が準備されている。また、採用実績として埼玉県・さいたま市・名古屋市の例がある。埼玉県・さいたま市のSC採用は、GCと臨床心理士の採用が同一条件となり、特に、今年埼玉県では(170人中)GC10人が採用となった。SC推進協でも、栃木県から埼玉県SCの応募を呼び掛けたい。

③衆議院に提出された国家資格公認心理士法案が継続審議中は、2年後までに政令で詳細が決まる見通しである。これは汎用的な資格なので、SC推進協としては教育領域でのカウンセリングのあり方を提案していく方針である。

(2) 平成26年度、スクールカウンセラーとして埼玉県で10名、さいたま市で14名、名古屋で2名が採用になりました。内、4名の先生方が8月24日(日)東京聖栄大学で開催された公開シンポジウム2014「ガイダンスカウンセラーの未来地図Ⅲ」で発言されました。その内容は、これからの活動指針を示唆するような大変意義深いものであったと思います。

記 平峰 孝二

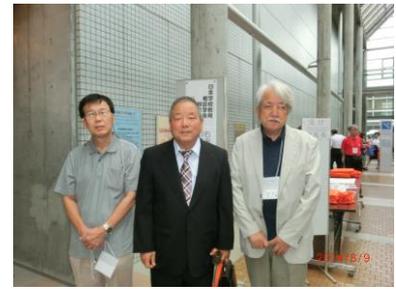
○日本学校教育相談学会群馬大会報告

第26回総会、並びに研究大会が8月9,10日群馬県前橋市にある群馬県生涯学習センターで開催されました。開催日前日から台風11号による大雨の情報が心配されましたが、幸いそれまで猛暑続きだった前橋も暑さが一段落し、風雨は強い時はあったものの過ごしやすい気温でした。

総会で8日に開催されたワークショップには180名以上の参加があったとの報告が研修委員長よりありました。今回、隣接県での開催ということもあり、

栃木県からは16名の大会参加

があり、さらに5名が口頭発表、1名がポスター発表と支部会員の研究への意欲が感じられました。また、前支部理事長である丸山隆先生がこれまでの学会と支部に対しての功績が認められ名誉会員として表彰されましたのでご報告いたします。そして、第27回研究大会が平成27年8月1、2日、ワークショップが7月31日に大阪で開催されることが会員の総意で決定されました。



大会に参加された歴代支部理事長



記 谷津 嘉子

<記念講演、特別講演を聞いて>

総会初日8月9日(土曜 11:10~12:30)、「未来を展望する学校教育相談のあり方」という演題で記念講演がありました。講師は有村久春氏(東京聖栄大学教授)です。学校カウンセリングの必要性、方向性を時代の流れに即したものにすること(生きる力から生き抜く力への変化)、スクールカウンセラーの役割、教師とカウンセラーの援助領域の差異、気がかりなこと(子供達の自己形成不安、精神的に病む先生達)などが語られ、基本にはロジャースの考え方、理論にもう一度立ち返って学んでいくことの大切さを訴えておられました。

午後(15:50~17:00)の特別講演は「いじめ問題解決への視点」という演題で、講師は東京国際大学大学院教授手島茂樹氏です。終始、軽妙な語り口とユーモアの連発で参加者はすっかり手島ワールドに酔い痴れていました。講演の概要は1、従来の指導という視点では太刀打ちできない時代背景(集団主義の農耕民族から個人主義の狩猟民族) 2、どのようなメカニズムでいじめは発生し、維持されるのか(思い込みによるコミュニケーション、わかってくれる人がいない、肯定的感情交流がない) 3、いじめ解決への視点(人間関係の構築というデザインの観点…クラス作り、家庭への援助という観点…親の子への関わり方)でした。

両氏の講演は総会に参加したすべての人に、明日からの実践に示唆と勇気を与えてくれました。総会の醍醐味というのはこういう点にあると感じます。振り返り、工夫と改善の必要性はわかっている、つつい忙しさにまかせ、惰性に陥りがちな教育実践をしてきてしまった私は反省しきりです。現役で日夜奮闘している会員の皆様には是非、時間とお金はかかっても全国規模の研修に参加することをお勧めします。きっと目が覚める体験ができ、「よし、リセットしてみるか」という気になること間違いなしです。

記 柴 一弥

第26回群馬大会 研究・事例口頭並びにポスター発表者

【8月9日発表】

- 分科会1-① 学校で実施した簡易型認知行動療法
～認知の修正とセルフコントロール脱感作法～ 宇都宮工業高等学校 岡本幸二
- 分科会3-② 不登校小1男児へのチーム支援
～SCとしての援助と役割～ 栃木県連合教育会相談部 村上恵子
- 分科会5-② 養護教諭がSCM（スクールカウンセラージャ）をした時の効果的な校内体制について
宇都宮市立富屋小学校養護教諭
池田清恵
- 分科会6-② 特別支援教育における授業0期での心理臨床的アプローチ
～知的障害学級でのA子の指導事例を通して～ 日光市立東中学校 吉川修司
- ポスター発表
学級担任によるグループカウンセリングの実践
～対人関係ゲームが児童の学級への愛着感と担任への親和感に及ぼす効果～
宇都宮市立陽南小学校 伊澤 孝

【8月10日発表】

- 分科会12-① 不登校から引きこもりになったA子を支えた母親面接
～母親の精神的自立と共にA子の問題行動が改善した事例を振り返る～
栃木県連合教育会相談部 谷津嘉子

日本学校教育相談学会栃木県支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内
栃木県連合教育会相談部
日本学校教育相談学会栃木県支部事務局
(事務局 谷津 嘉子・中山 芳美)
TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682
E-Mail : soudan@tochigi-rk.jp

発行責任者 柴 一弥
広報担当者 馬場 友治
平峰 孝二
松本 直美